



福岡県小郡市大板井1143-1

電話番号 0942-72-7221

FAX 0942-72-7222



発行人

こぐま福祉会編集委員会

<http://www.koguma.ed.jp>

暑さに負けない!! こぐまの夏!!



朝顔が咲き、蝉の声が聞こえ始める頃、こぐま福祉会の療育スタッフは、朝からこの季節でしか経験できないあそびの準備に忙しくなります。ベビーバスにおろし金で作った石鹸の粉を入れて、泡立てネットを両手に、大量の泡を作っています。これは、「泡あそび」の準備です。ふわふわした泡を作るために、ハンドミキサーを使うこともあります。

大きな鍋をコンロにかけて、大粒の汗をかきながら、かき混ぜているスタッフもいます。これは、「フィンガーペインティング」やボディペインティングに使う小麦粉のりを作っているのです。この小麦粉のりを絵の具に混ぜることで、気持ちのいい、ぬるぬるの感触が楽しめ、更に、洗い流すと、すっと絵の具が落ちるのです。とろとろとした小麦粉のりを作るのはなかなか難しく、熟練の技を持つ先輩が後輩を指導しながら、作っています。

大プールでの水あそびでは、毎日水を入れ替えるため、なかなか水温が上がってきません。長いホースでお湯をひいてきたり、バケツリレーでお湯を入れたり、子ども達が気持ちよくあそべるようにと、スタッフの奮闘は続きます。

子ども達が全身で感触を楽しみ、季節を感じさせてくれる夏のあそび。そこで見られる笑顔と、「こんなことしてあそんでくれた!」の達成感。そこにスタッフもこの上ない喜びを感じています。

(保育士 西本)

心の窓



かぶとおしグループ

たいこ はやと
醍醐 颯人 くん

颯人は平成二十一年二月二十六日に、我が家の長男として誕生しました。新生児期は特に異常は指摘されませんでした。生後数ヵ月頃からミルクの飲みが悪い、あやしても笑わない、反り返りがひどく縦抱きができないなど、気になる症状が出てきました。他の子はできているのに颯人はできていない、という現実には焦りを感じてきて、その頃から私は育児を楽しむ余裕がなくなってきました。何をしても反応のない颯人に苛立ちさえ感じ、自分を見失うこともよくありました。

その後も颯人の発達の遅れは目立ってくる一方で、一歳半の時に市の療育センターを紹介され通い出しました。ゆうには二歳になってすぐから通っています。診察を受け「知的障害と自閉症スペクトラム」と診断されました。その時点では、もう障害のことはある程度受容できていて、息子のペースで最善の方法を考えていこう！という前向きな気持ちへと変わっていました。

それでも同伴していた最初の一年間はとにかく颯人のことが分からなくて、毎日毎日悩んでいた覚えがあります。

暑くても水分を摂るのを嫌がったり、みんなが楽しく遊んでいる中に全く入れなかったり、急に何かに怯えしがみついたりきたり……。言葉もまだ出ていなかったもので、お互いにもどかしい日々を送っていました。

そんな颯人も今年でゆう四年目です。単独通園にもなり、徐々にできることも増えてきました。トイレも行けるようになり、お友達の名前を言ったり、苦手だった感触あそびも楽しめるようになりました。本当にスモールステップだし、まだまだできない事、苦手な事もたくさんあるけれど、着実に成長しています。そしてその成長には、多くの先生やお友達、お母様方が関わって下さっていることにとても感謝しています。親の私も、何度も励まされ支えられました。本当にありがとうございます。

最後になりましたが、颯人の障害は決して不幸なことではなかったと最近深く考えます。小さな小さな成長がとても大きな喜びとなり、純粋な心に胸を打たれることも度々です。そしてたくさんの方とも出会え、母である私を人間として強くしてくれました。色んなことに気付かせてくれた颯人、私の子として生まれてきてくれて本当にありがとう。

(颯人の母)



保育士
いねなが このみ
稲永 好実

こんにちは。保育士二年目の稲永好実と申します。少しでも私の事を皆さんに知って頂ける機会を嬉しく思います。

私は、子どもが大好きです。自分の気持ちを身体いっぱい表現したり、キラキラした笑顔で思いっきりあそんだり、途切れることのないパワーに毎日元気をもらっています。

私は子どもの頃から幼稚園教諭として働く母から園の写真を見せてもらったり、話を聞いたりしていたこともあり、「先生」という職業がすぐ側にありました。だから、私は「先生」に憧れていましたし、小学校高学年に上がった頃からはずっと「私は先生になるんだ」とずっと信じていました。

先生になるという夢を実現させる為に、保育科がある短大に通いました。二年間の学生生活は、毎日の授業とピアノの練習と実習であつという間に過ぎ、就職活動の時期がやってきました。私は保育を学び、実習を経験する中で、「先生になれるのかな」と不安になり、なかなか就職活動の一步を踏み出せずにいました。

そんな時に、障がい児保育を担当されていた先生からこぐま福祉会の話しを聞く機会がありました。これがきっかけとなり、私はこぐま福祉会へ見学に行くことになりました。説明を聞きながら療育を見学していると、ある男の子から「新しい先生？」と声を掛けられました。何気ないその一言で私は「先生と呼ばれた」と、とても嬉しくて感動したのを覚えています。

その男の子からの一言で「私はここで先生になりたい」と強く決意しました。私に声を掛けてくれた男の子はいまだに名前も分からないままです。もし偶然にも会えたら「背中を押してくれてありがとう」と伝えたいです。

それから私は採用試験を受け、昨年からはこぐま福祉会のスタッフとして働かせて頂いています。日々をこぐま福祉会で過ごす中で、見学では分からなかったことを沢山知ることができ、チャレンジする場面を頂き、勉強の毎日です。また、子ども達の元気な姿や笑い声が癒され、一緒にあそび、本当に毎日が楽しいです。子ども達、お母様方に支えられて今の私があります。これからもっと勉強して成長していきたいと思えます。



命の大切さ

AED公共設置から十年

六月九日(月)、こぐま福祉会にて「一般救急法講習」を、職員七十五名が受講しました。内容は三井消防署救急隊員二名、消防団員一名による「AEDを使用した心肺蘇生法」「止血法」等で、二時間に渡り行われました。

AED(自動体外式除細動器)は、心臓が止まった際に、電気ショックを与えて正常に戻す医療機器です。以前は医療従事者のみの使用に限られていましたが、二〇〇四年七月に一般市民の使用が許可され、今年で十年を迎えます。通報を受けて救急車が到着するまでの時間と比較して、公共の場に設置したAEDが救命や社会復帰の点ですぐれた効果を発揮しています。こぐま福祉会医務室にも、AEDを設置し緊急時の対応に備えています。

こぐま福祉会は、これからも利用者様の「大切な命」を守る為、様々な研修を重ね、学び続けます。

(防火管理者 松元)



地域支援だより

まごんて



特別支援学校見学会

こぐま福祉会では、毎年六月に、来年度就学予定児の保護者の方を対象に、特別支援学校の見学会を実施しています。今年度も、保護者の方々と見学に行ってきました。

参加状況は以下の通りです。

六月十二日(木)久留米特別支援学校

参加者 七名

六月十九日(木)小郡特別支援学校

参加者 六名

六月二十六日(木)

太宰府特別支援学校

参加者 三十三名

はじめに学校の概要についてお話があり、教育目標や教育方針、児童数やクラス編成、教員配置、スクールのバスの運行状況や、年間行事など詳しく説明していただきました。その後、各クラスを見学し、実際の授業場面を見ることができました。



太宰府特別支援学校見学風景

就学までの流れ

毎年、就学学習会(三月)や特別支援学校見学(六月)を実施しておりますが、個別の相談は随時対応しておりますので、いつでも相談員へお声かけ下さい。

就学までの流れを簡単に表にしておりますので、ご参照下さい。

	4月	5月	6月	10月	1月	2月	3月
各市町村 教育委員会	情報収集(保・幼・こぐま) →						
	就学相談 →						就学通知
	適正就学指導委員会						
	就学時健康診断						
学校	見学 →						入学説明会
特別支援学校	教育相談						
	見学 →						入学説明会
こぐま福祉会	個別面談 →						
	特別支援学校見学			教育委員会対応			

(相談員 福富)

宿泊体験に行ってきました

六月二十八日(土)・二十九日(日)

生活介護事業所『愛らんど』で、夜須高原の「やすらぎ荘」へ行き、宿泊体験を行いました。

初日は、体育館にてサッカーや大縄跳びで身体を動かし、記念品作製では一人一枚、自分だけのうちわを作りました。

二日目は、夜須高原にある、「記念の森」へハイキングに行きました。天候にも恵まれ公園ではたくさんのアスレチックを楽しむことが出来ました。利用者の笑顔も多く見られ楽しい宿泊体験となりました。

(生活支援員 山口)



こぐま療育セミナーを開催しました！

7月26日（土）、27日（日）に平成26年度こぐま療育セミナーを開催しました。地域で子ども達を支援する保育所や事業所が増える中、こぐま福祉会として発信できる内容を考え、今回のテーマを『地域で子ども達を支えるために～ライフステージからみた支援の重要性』とし、大熊理事長をはじめ、塩永所長、木下園長、林園長など各部署、各職種から事例を交えて講義を行いました。

今回は定員を超える74名の方に参加して頂き、活気溢れる2日間となりました。

受講者の方からは「ライフステージというテーマが明確であったため内容が分かりやすかった」「改めて子どもの発達を知る機会となった」「日頃の子ども達の支援の参考になった」など沢山のご感想を頂きました。また、開催時期や講義時間についてもご意見を頂いており、多くのご意見を参考に、次年度もより良いセミナーを企画したいと思います。

ご協力していただいた皆様、ありがとうございました。

（研修委員 田中亮）



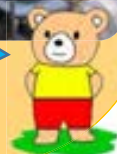
子ども達を支援するために
～年齢から考えておくべきこと



肢体不自由を持つ児の理解と
生活支援について



沢山のご参加
ありがとうございました。



夏祭りのお知らせ

今年もこぐま福祉会の夏祭りを開催します。夏の思い出に皆さんふってご参加下さい。今年は、ステージイベントとして小郡音頭や子どもみこし、すいか割り等、様々なイベントを計画しています。ご家族揃ってお楽しみ下さい♪

《日時》 八月三十日（土）

十七時～二十時十五分

（雨天決行）

《飲食コーナー》

カレーライス・やきそば・かき氷・わたがし・ジュース

《イベントコーナー》

ステージイベント（盆踊り等）・花火・くじ引き・ヨーヨー釣り・おばけやしき

《手作り品の店》

たんぼんなか、愛らんど、べあくラブ、尾久保研修所より出店

※出店はチケットでの販売になりますが、一部現金での販売になる所があります。

前売りチケットは受付にて発売中です！当日のチケット購入は大変混み合いますので、事前に受付での購入にご協力下さい。

（夏祭り実行委員 立山亮）



小郡市議会議員の方が 来園されました

来園されました

七月二十九日（火）に小郡市議会議員 保健福祉常任委員会の方（六名）が来園されました。まず、こぐま福祉会全体の事業説明を行い、その後、現在の障害福祉に関する現状と課題について子ども部門から成人部門、また地域からの「生の声」について説明させて頂きました。最後は館内見学を行い、子ども達や成人の方の様子を見て頂きました。皆さん熱心に話しを聞かれ、多くのご質問を頂き、とても有意義な時間となりました。行政を含めた地域連携に繋げていくためのよい機会にしたいと思います。

（こぐま学園 園長 木下）

職場復帰のお知らせ

出産・育児休暇を終え、七月十六日より復帰しました。

保育士 橋本 里香

八月行事予定

二日（土）避難訓練
九日（土）愛らんど

十三日（水）バスハイク
二十日（水）夏季休暇

二十三日（土）こぐま療育キャンプ
三十日（土）夏祭り

一日（金）真愛保育園
二十六日（火）味坂保育園
二十七日（水）三国保育園
二十八日（木）五条保育所

《交流保育》

